

避難生活支援リーダー／サポーター研修 実施要項

【主催】 内閣府

【共催】 沖縄県・那覇市・浦添市

1. 趣旨・目的

災害の激甚化・頻発化等に伴い避難生活が長期化する中、避難所の生活環境の改善に向けた知識・ノウハウを持つ人材の育成が急務となっています。

本研修は、国の「防災基本計画」および「第1次国土強靱化実施中期計画」に基づき、地域のボランティア人材、自主防災組織、行政職員等が連携して良好な避難生活環境を確保し、「災害関連死・ゼロ」を実現することを目的として実施します。

2. 目指す人材像（避難生活支援リーダー／サポーター）

避難所運営の基本的なスキルを修得し、自治体職員や被災者とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組むことができる人材。

- 避難所における課題や被災者の困りごと、変化に気づく力を身につけている。
- 被災者一人ひとりの声を丁寧に聴き、その心情に寄り添い、被災者とともに取り組む姿勢（伴走型支援）を重視する。
- 気づいた課題や困りごとを避難所運営に関わる多様な担い手と共有し、具体的な解決に向けて共に話し合い、サポートする。

3. 対象者

- 町内会・自治会、自主防災組織の関係者
- 地域ボランティア、防災士、市民活動団体
- 福祉・医療関係者、民生委員・児童委員
- 地方公共団体（行政）職員、消防団員
- その他、地域の防災力向上に関心のある個人・学生等

（※過去の実績より、幅広い年齢層、男女ほぼ同等、多様なセクターの参加が推奨されます）

4. 研修プログラム構成

本研修は、受講効果を高めるため「事前学習（オンデマンド）」と「避難所運営演習（2日間）」のハイブリッド型で構成されています。

(1) 事前学習：オンデマンド講座（1コマ20分×8コマ程度）

演習の1日前までに、LMS（eラーニングシステム）、DVD視聴、上映会視聴等のいずれかの方法で受講してください。

(2) 避難所運営演習（対面・2日間）

- 講師：避難所運営支援の経験豊富なNPO職員等
- 研修スケジュール：次頁参照

※各プログラムについては、内容調整中のため、一部内容変更となる可能性があります。

1 日目

項目	概要
(1) 開会等 10:00～10:30 (30)	○開会挨拶 ○オリエンテーション ・研修実施の背景、期待されるリーダー／サポーターの役割 ・研修の概要
(2) プログラム 1 多様な被災者の理解とその配慮 10:30～12:00 (90)	○講義 ・被災地、被災者への理解 ・災害時における要配慮者の立場例
	○演習 ・被災者と支援者のやり取りを再現した動画を紹介し、紹介された被災者の心情、困りごとを話し合う ・グループで検討した内容を発表・共有
12:00～13:00 (60)	休憩・昼食
(3) プログラム 2 避難所の課題と生活環境の整備 13:00～15:40 (160)	○講義 ・避難所に必要なスペースとその機能 ・一日の流れ、活動内容、運営する上での留意点 ・運営に関わる担い手の理解
	○演習 ・受付／情報コーナー／物資提供／食事スペース／寝床／洗濯物干しスペース、それぞれ避難所のスペースを再現 ・各スペースの巡回を行い、それぞれ「改善点」を話し合い、具体的な改善作業を行う ・各スペースの改善の発表と解説
(4) クロージング 15:40～16:00 (20)	・受講者同士のふりかえりとアンケート記入 ・2日目のアナウンス

2日目

項目	概要
(1) プログラム 3 対人コミュニケーション 10:00～12:30 (150)	○講義 ・避難所におけるコミュニケーションの目的、基本
	○演習 ・「被災者役」「リーダー／サポーター役」「観察者役」の3つの役となり、コミュニケーションの仕方を体験する ・グループでの演習結果を全体で発表・共有
12:30～13:30 (60)	昼食・休憩
(2) プログラム 4 運営の担い手との連携・協働の 必要性 13:30～15:40 (130)	○講義 ・課題・困りごとを解決するためのポイント ・被災者との情報共有、参加できる場づくり
	○演習 ・2日目午前中に検討した4つのケースについて、「被災者の困りごと」に対して「リーダー／サポーターができること」や「活用できそうな地域の資源」を話し合う ・グループで検討した内容を全体で発表・共有、解説
(3) クロージング 15:40～16:00 (20)	・講師からのコメント ・名簿登録 ・修了証授与 ・受講者同士のふりかえりとアンケート記入

・講師紹介（敬称略）



辛嶋 友香里（からしま ゆかり）

ピースボート災害支援センター 国内災害事業 現地コーディネーター

2011 年、東日本大震災をきっかけに PBV の初期運営メンバーとして支援に携わり職員となる。被災地に向かう数万人のボランティアをオーガナイズ。現在は、全国各地で講演や研修講師としても活動中。災害ボランティアや避難所運営の人材育成など各種「防災・減災」プログラムの開発、企画、制作、運営などを総合的に実施している。その他マニュアルの作成アドバイス、執筆なども行っている。

また、国内災害の緊急支援も担当。毎年常駐型で、被災地の現地コーディネーターとして災害対応にあたっている。

・アシスタント講師紹介（順不同、敬称略）



三谷 潤二郎（みたに じゅんじろう）

倉敷市教育委員会 生涯学習課 課長

1994 年倉敷市役所入庁。2018 年西日本豪雨において避難所での男女共同参画推進を目的に災害対策本部へ常駐。初動時以降は避難所運営担当として避難所の統合・廃止、各種課題の洗い出しと解決を目的として設立した避難所運営チームのファシリテーターとして課題解決に向けた庁内外との調整にあたった。現在は、内閣府防災「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」の構築に向けた具体化検討会研修カリキュラム検討チーム委員として本研修の検討を進めている。



大澤 明浩（おおさわ あきひろ）

ADRA Japan 事業部国内事業課 プログラム・オフィサー

福島県飯舘村出身。能登半島地震をきっかけに ADRA Japan へ入職し、東日本大震災での避難生活の経験を原点に支援活動に携わっている。石川県穴水町に駐在や出張をしながら、災害ボランティアセンター運営支援や在宅被災者支援などを担当してきた。オンラインイベントやワークショップを通して防災・減災にも取り組む。入職前は小学校教員や JICA 職員、日本語教員など、教育・国際協力の分野で人材育成に従事した。2022 年～2023 年は浦添市にある JICA 沖縄勤務で西原町に住んでいた。



桜井 野亜（さくらい のあ）

沖縄じゃんがら会 理事／HIRAETH 共同代表／

那覇市就職・生活支援パーソナルサポートセンター 相談支援員

2011 年東日本大震災で被災し避難生活を経験。同年、福島県から沖縄県那覇市に家族で避難した後、避難者支援のため沖縄じゃんがら会を発足。那覇市教育委員会での非常勤勤務を経て、復興庁避難者情報提供事業委託をきっかけに沖縄じゃんがら会の相談員として勤務。沖縄じゃんがら会は後継事業である福島県県外避難者への相談・交流支援事業を継続受託している。現在は那覇市就職・生活支援パーソナルサポートセンターの相談員として福祉の現場で相談支援に携わりながら、避難者支援も行なっている。

5. 修了者の特典・位置付け

1. 名簿登録と修了証の授与

2日間の演習を修了した参加者には修了証を授与し、地域の避難生活支援リーダー／サポーターとして名簿登録を行います。※名簿登録は任意となります。

2. データベースの整備（防災基本計画に基づく措置）

国（内閣府）および地方公共団体により登録ボランティア人材のデータベース化が進められており、災害発生時には行政職員や避難所支援者等とスムーズに連携して活動する体制が構築されます。

6. お問い合わせ・お申し込み

[事務局（浦添市防災危機管理課）]

- 担当者：天久
- 連絡先：Tel :098-876-1190 / Email: bousai@city.urasoe.lg.jp
- 申込締切：令和8年7月29日（水）